

サ
ム
バ
 THE SAMBA

サムバはブラジルの国民舞踊であります。このダンスは一九〇五年にはマシシ *Maxixe* という名で同じラテン語系の言葉を話すパリに伝わりましたが、この頃は社交ダンスというよりも、展示用ダンスとして持てはやされてきました。アメリカではやはりその頃マシシが一部の人に踊られていたらしく、ニューマンの一九一三年版の書物にその踊り方が記されています。一九二〇年世界大戦の終わった直後マシシよりはリズムの強いサムバというダンスが欧州に流行し、昭和の初年我国にダンス・ホールができ初めた頃パリ帰りの人達はよくサムバを踊っていました。

音楽は $\frac{2}{2}$ に奏され各拍に強いアクセントを持っていますが、テムポはすこし速いので、S歩が多いという特色があります。音楽は一小節を二拍子に数え、多くはSSとカウントしますが、稀にはSQQとカウントすることもあります。

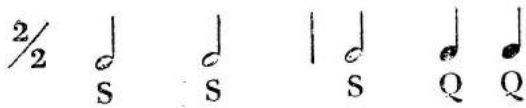


Fig. 236

ブラジルは南米大陸の東北部に位する世界第三の大国で、面積は八五〇万平方キロ（わが国の二十三倍）で南米大陸の半分を占める大国であるのに人口は僅か五、七〇〇万でわが国の六割しか住んでいないという人口の稀薄な国で、国土の大部分は密林が多く北部のアマゾン川沿岸は人跡未踏のセルバが大部分を成している。南部はやや開け、首府リオ・デ・ジャネイロは人口二四〇万の大都会であり、その南方のサン・パウロ（人口二四〇万）など、その他大小の都市も散在していて、文化も開けています。国がこんな幅広くても密林や山地が多く、北部のアマゾン地域の中心は赤道が中央を貫いて人口がすくないので、交通も不便であるから、全国的なダンスなどというものはありません。サムバもこの国の代表的なダンスとはいえないもの、地方によって大分ちがっているのです。

サムバの踊り方については色々なものが紹介されていますが、ここにはわが国で一ばんよく使われ

ているものを記しておきます。このダンスは西印度列島のダンスと違った性格を持っています。その特色を簡条書きにして見ると次のようになります。

バウンス *Bouncing movement* バウンスとはテニスのボールが地面に落ちてはね上るような運動であります。このダンスのステップは始めに膝を曲げて全身を床に近く沈め、次に膝を伸ばして上体を高くすること、丁度テニスの球が地面に落ちてはね上る様子に似ています。これはすこしむつかしいけれども、このダンスの重大な特色ですから、充分練習して自由にこなすように心掛けることをお勧めします。

スウィング *Swinging movement* 次の重大な特色は身体を時計の振子のようにスウィングすることにあります。このスウィングング・ムーヴメントは、足が前方にステップしたときは全身を後にスウィングし、足が後方にステップしたときは全身を前方にスウィングしてその特色を表現します。そしてこのスウィングは腰のところまで折れることなく、全身が真直ぐのままでも、後にもスウィングすること、ちょうど時計の振子のような形に行うのです。

スウェイ これは廻るときに用いるものですが、その特色は腰から上を、ステップした足と反対の方向に傾けるもので、ナチュラル・ロールとリヴァース・ロールのときに主として用いられます。

以上はサムバの特色ではありますが、これをあまり極端に用いてはいけませんので、どのムーヴメントもただこのダンスの性格を表現するに足る程度にすべきものです。

組み方 男女はお互にどちらにもずれないように正しく向き合い、胸の間を掌（手首から指先まで）の間だけあけて *Palm span* 男子の右手は婦人の左側からすこし背に廻し、婦人は左手を男子の肩と肘との中間に置きます。男子の左手と婦人の右手は、二人とも肘を直角に曲げ、肘から掌までを密着し、お互に肘を肩の高さに張出し、掌を頭の上まで上げます。ブラジルの踊り手は男女とも肘を直角に曲げ、肘から掌までをピタリと附けあい、掌もピタリと並行につけて踊ります。私の経験ではブラジルの組み方は非常に性格的でよいかわりに、変化のあるステップをするとき二人の手が離れる不便があります。しかし社交ダンスとして簡単なフィガだけを続けるなら、この方が地方色豊かになってかえってよいと思います。